

■市長選挙

今年はさいたま市政にとって重要な年。5月26日に市長は任期満了を迎える。現職の清水市長を含めて、まだ誰も出馬表明をしていない。今後、現職を軸に動くと思われ、「3期まで」とした多選自粛条例提案の件や、意向が示される市庁舎移転などが、判断材料の柱となるだろう。

告示日：5月9日 投開票日：5月23日



市長の部屋

■交流事業「東日本連携」「国際交流」

今後、さいたま市はますます交流都市としての存在感を発揮したい。「東日本連携」において、人口減少時代に首都圏の一角を為すさいたま市の役割は大きい。全庁を挙げて進めるよう、9月定例会一般質問で市長に指摘。英語教育の先に位置づく国際交流も、オンライン活用で積極的に進めるよう提案。



在り方が問われる「まるまる東日本」

■議会

4月、新型コロナの緊急事態宣言の中、臨時議会開会。市民の声を行政に届けた。「専決処分」(7月)や「総合振興計画」の議案について、議会からは厳しい指摘も。コロナ対応などでさらに激務の中、現場で奮闘する市職員たちの仕事の妨げにならぬよう自制しつつ、議会では言うべきことを言う、という流れの議会。



議場には季節の盆栽が展示される。

■総合振興計画

今年から10年先を見据えた「総合振興計画」がスタートする。計画策定には議決・報告を必要とすることから、議会でも時間をかけて審議してきた。土井からは「変化の速い時代に10年の長期計画が成り立つのか」「首都圏の一角を為すさいたま市の、東日本連携における役割を明記するべき」などを指摘した。



総合振興計画

■見沼んぼの「活用・創造」に向けて

見沼んぼは未来に継承すべき重要なエリアだ。「保全」の段階を経て「活用」し「創造」する段階にきている。農家の後継ぎ問題などが顕在化する中、コウノトリの飛来や若手新規就農者の希望あるニュースも届く。憩いの場、産業の場としてますます重要視して取り組みたい。



里山から見た見沼んぼ（見山地区）

■荒川治水と流域交流

さいたま市は荒川と共にある。給水も得ているし、洪水対策も重要だ。2019年の台風19号について、荒川上流事務所を訪問し、大規模被害が紙一重だったことを確認。適宜、緊張感をもって治水対策の具体的提案をしつつ、秩父市議ら流域の議員・市民たちと連携のための共通の土台作りを進めている。



荒川上流事務所にて

■新型コロナ対策



新型コロナウイルス関連情報

【ワクチン】

昨年末の厚生労働省通知を受け、今年1月15日にさいたま市でも接種の決定。以下の見通しが示されている。今後コールセンターが設置されるとのこと。

- 2月下旬 医療従事者等に接種を開始（都道府県が実施）
- 3月上旬 高齢者（65歳以上）に接種券等を送付
- 3月下旬 高齢者に接種を開始
- 4月以降 高齢者以外の市民に接種券等を送付、接種開始

【エッセンシャルワーカーの業務継続】

コロナ下でも社会機能を維持するため継続すべき仕事がある。医療や保健所、保育・高齢者など福祉施設、公務員、民間事業者などエッセンシャルワーカーたちの業務継続について質問した(9月)。介護事業所等で「消毒・清掃費用、人員確保紹介料、割増賃金や宿泊費等を補助」や「県互助ネットワーク登録の呼びかけ」など対応をするとのこと。

HOT
LINE

ぜひご意見をお寄せください doi.net

✉ doi@doi.net 〒336-0015南区太田窪2037-6

TEL 048-886-2858 FAX 048-873-3446